

第14回東日本大震災復興対策本部会合資料

～復興・創生の実現に向けて～



1. 東北における観光振興の取組み
2. 鉄道の復旧
3. 被災地における生活交通の確保
4. 造船業の復興



平成30年3月9日

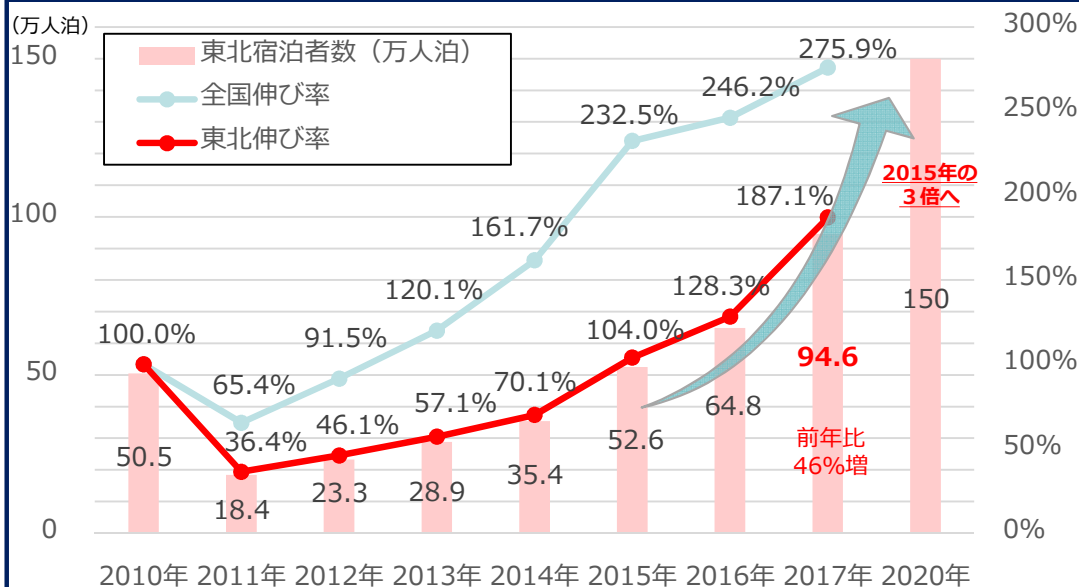
東北運輸局

1. 東北における観光振興の取組み

- 2016年を「東北観光復興元年」とし、2020年に東北6県の外国人延べ宿泊者数を150万人泊（2015年の3倍）とする目標
 - 平成29年（年計）は**945,560人泊**となり、前年と比較して全国は12%増加である一方、**東北は46%増加**（平成28年は対前年比23%増加）
- 訪日外国人旅行者数は、震災前水準まで回復してきたが、絶対数が少なくさらなる取組みが必要
 - ○東北ならではの地域資源を活用し、地域と連携・協働した滞在プログラムの充実
 - 地域間が広域に連携した効果的なプロモーション、受入環境整備の強化
 - 地域の関係者が連携するDMO等の取組み体制の強化

を推進

訪日外国人旅行者数の現状と観光ビジョン目標



東北観光復興対策交付金

- 東北の復興の加速化に向けて、地域の発案に基づく施策を支援
 （平成29年度予算額：約32.6億円、交付先：6県85市町村）
- **主な取組事例**
- **取組体制の強化**
 仙台・松島復興観光拠点都市圏域DMO組織設立事業（宮城県、仙台市他8市町）
 仙台地域、松島湾地域及び仙台空港周辺地域におけるDMO組織設立に向け関連団体が一体となり地域連携DMOの立ち上げを行う
 - **受入環境の整備**
 三陸ゾナーク案内板等整備事業（岩手・青森両県、三陸沿岸15市町村）
 見どころや周遊コースを紹介する案内板を設置して魅力を発信
 - **滞在コンテンツの充実化**
 東北太平洋沿岸等における受入整備事業（太平洋側4県、仙台市）
 平成29年11月仙台市で開催の「世界防災フォーラム」で東北太平洋沿岸地域の魅力を伝えるため、プロモーションツールの配布や、ポスターの作成、エクスカージョンプログラムの紹介などを実施

最近の主な取組

- **東北6県知事らによるトップセールス（香港）**
 昨年の台湾に続き、風評被害払拭のため香港において東北観光推進機構会長、東北6県知事、仙台市長及び東北経済連合会会長らによるトップセールスを実施（「香港・日本東北交流懇談会2017」開催（H29.7.21））



- **東北6県感謝祭（台湾）**
 日本政府観光局(JNTO)と日本東北六県感謝祭実行委員会（東北運輸局・東北観光推進機構・日本観光振興協会東北支部・東北6県）は、台湾台北市において「日本東北遊楽日2017 だいすき とうほく」（H29.12.8～10）を開催し、東北観光の魅力を強力に発信（3日間で12万4千人の来場者数）

観光ビジョン推進東北ブロック戦略会議

- 外国人旅行者を受入れるにあたっての、観光資源の魅力向上のあり方や受入環境課題等に関する今後の基本的方針などを議論
- ◆ 第1回会議 平成29年 6月 9日（藤井国土交通大臣政務官出席）
 - ◆ 第2回会議 平成29年12月18日
- **主な議論内容**
- ・東北のイメージを発信した一体的なプロモーションの手法
 - ・復興・創生期間後を見据えた東北としての観光資源の姿
 - ・オリンピック・パラリンピック開催等に向けて、東北が一体となって観光客を受入れるための取組

2. 鉄道の復旧

鉄道の復旧状況

- 東日本大震災で被災した鉄道について、順次、復旧が進捗し、現在運休中の路線は、2路線：76.2km
(※ 震災10日後：25路線：2,530km)



【JR山田線(宮古・釜石間)】55.4km

- ※ 三陸鉄道へ運営移管予定
- 現在、JR東日本で **平成30年度末の完成を目指して復旧工事中**

※岩手県は、復旧工事完了後の平成31年に三陸鉄道の各駅を中心に「三陸防災復興博(仮称)」を開催予定

【JR常磐線(小高・浪江間)】

- 平成29年4月1日 運転再開

【JR常磐線(浪江・富岡間)】20.8km

- 【開通の見通し(平成28年3月10日現在)】
- 平成31年度末までの開通を目指す**

【JR常磐線(富岡～竜田間)】

- 平成29年10月21日 運転再開



■ 東日本大震災により運休中の区間
■ BRTによる本格復旧で合意

山田線の復旧工事状況

- 倒壊した橋脚の復旧、盛土、線路の補修・移設、まくら木・碎石交換、駅新築等により復旧工事中

桁架設(陸上部)



(大槌川橋りょう)

駅新築



(陸中山田駅)

常磐線の復旧工事状況

- 常磐線の空間線量率の高い区間の安全対策
- 用地内の除草や表土の削り取り、マクラギ交換などの除染・復旧工事を実施中であり、区間全体の約7割で除染完了

のり面・路盤の除染(除草)



(富岡～夜ノ森間)

のり面等の除染(モルタル吹付、被覆工)



(夜ノ森～大野間)

※写真提供：JR東日本

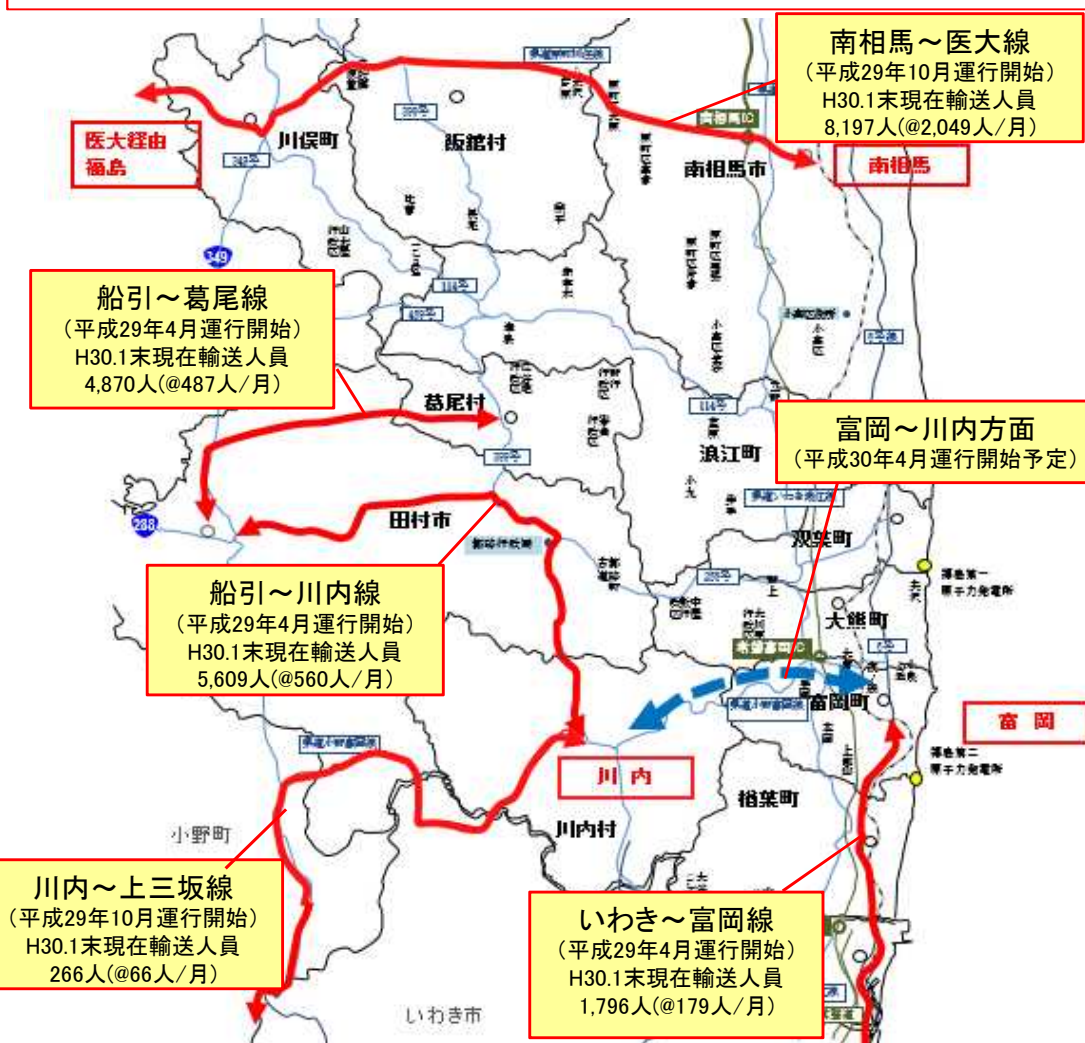
3. 被災地における生活交通の確保

被災地における生活交通の確保状況

- 復興事業や避難指示解除等により変化する被災地の移動ニーズに柔軟に対応するため、バス交通や乗合タクシー等の運行支援を継続実施。

○被災地域域間幹線系統確保維持事業：67系統：3県46市町村/483百万円（平成28年）
 ○特定被災地域公共交通調査事業：185系統：3県25市町村/862百万円（平成28年）

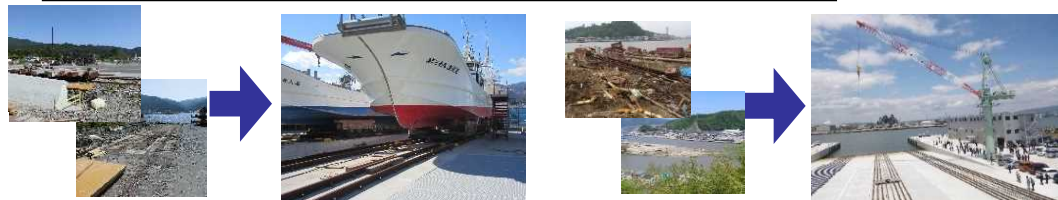
福島県の避難指示解除に伴うバス路線の運行再開状況
 （5系統15市町村 平成30年1月末現在輸送人員 18,942人）



4. 造船業の復興

造船業の復興状況

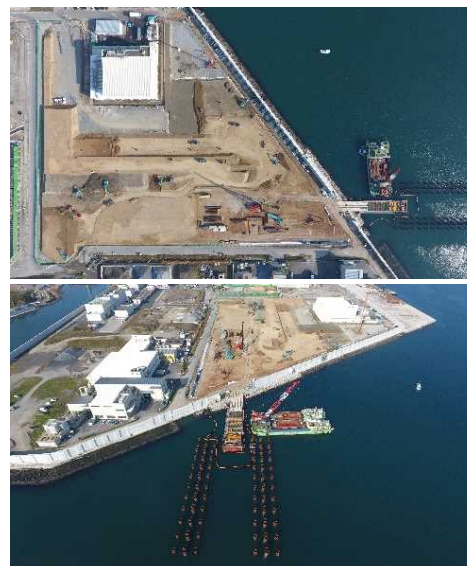
- 気仙沼市、石巻市、大船渡市及び南三陸町の造船事業者17社、加えて造船関連事業者2社の合計19社が造船業等復興支援事業費補助金を申請・認定（補助事業数8件、113億円の補助事業）
- 認定した8件の補助事業のうち、株みらい造船（気仙沼市）を除く7件の補助事業が完了。移転・集約化し事業を再開



【大船渡ドックケミカル（大船渡市）（H29年5月事業完了）】 【鈴木造船所（石巻市）（H29年6月事業完了）】

株みらい造船

- 被災造船所4社が合併及び造船関連事業3社が出資し設立
- 造船業等復興支援事業費補助金70.3億円（総事業費105.5億円）でシップリフトシステムを搭載した造船所を新たに建設
- 平成28年10月に起工式を開催（30年12月完工、31年4月操業開始予定）



【気仙沼市朝日町のみらい造船建設現場（H29年11月現在）】



みらい造船完成予想図



シップリフトシステム



みらい造船起工式